

神河町議会のあり方ゼミナール

第2ステージ(第1日目) 次第

日時 令和7年4月26日 午前9時00分～

場所 役場本庁3階 第3会議室

1 開 会

2 挨拶 神河町議会議長 澤田 俊一

3 自己紹介

4 ワークショップ

ファシリテーター

兵庫県地域再生アドバイザー

合同会社 人・まち・住まい研究所 代表社員 浅 見 雅 之 氏

テーマ

・「時間とお金についてアンケート」

・「議会議員の定数・活動量・報酬をどう考えるか」

5 そ の 他

6 閉 会

議会ホームページであり方ゼミナールの取組を公開中！ぜひご覧ください！



あり方ゼミ
HP



1日目
HP



2日目
HP



3日目
HP



4日目
HP



5日目
HP



6日目
HP

This image shows a full page of white paper with horizontal dashed lines, typical of primary school handwriting practice paper. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

神河町議会のあり方ゼミナール(第2ステージ 1日目) 席次表

小寺俊輔委員長・澤田俊一議長

ファシリテーター
浅見 雅之

1班

林田 直子		栗原 廣哉議員
廣納 良幸議員		山口 由記子
宮本 善郎		吉岡 嘉宏議員
		安田 草唄

2班

藪内 有希		上垣 哲史
松岡 宣彦議員		藤森 正晴議員
松本 優介		藤原 恵理
		藤原 資広議員

3班

村岡 廣隆		笹倉 武志
小島 義次議員		木村秀幸議員
大仲 洋子		藤原 正好
		安部 重助議員

湯茶コーナー

欠席者

竹國 健二	大中 鉄夫
成田 新吾	竹國 俊介

出入口

浅見雅之 自己紹介

一級建築士／地域コーディネーター

合同会社 人・まち・住まい研究所 代表社員

株式会社 春来てっぺん 代表取締役

特定非営利活動法人 神戸まちづくり研究所 事務局長

2010年「人・まち・住まい研究所」を設立。ドアノブのような小さなモノから、地域計画のような大きなモノのデザインを対象に、計画に関係する全ての人々が関わる関わり方の「プロセスデザイン」を得意分野とし、住民参加によるデザイン・設計・運営等をコーディネートしています。



建築設計のほか、兵庫県内を中心に、小規模集落の再生、オールドニュータウンの再生、まちづくり協議会や里づくり協議会の運営、集落営農の立ち上げ・運営、地域防災・マンション防災の取り組みなど得意分野は多岐にわたります。県外でも、滋賀県大津市での集落再生、山口県岩国市での地域自治会運営支援のほか、宮城県気仙沼・熊本県南阿蘇村・倉敷市真備町等で災害復興まちづくりの支援活動を行ってきました。また、全国各地でファシリテーション研修の講師として、話し合いや合意形成の方法について講義をしています。

略歴

1968年	埼玉県東松山市生まれ
1994年	北海道大学大学院工学研究科修士課程修了
1994年	株式会社いるか設計集団に所属（～2009年）
1995年	阪神淡路大震災 東灘区深江で被災
2010年	合同会社人・まち・住まい研究所を設立
2021年	株式会社春来てっぺん 代表取締役

職歴等

摂南大学 理工学部 非常勤講師 / 神戸学院大学 現代社会学部 非常勤講師
NPO 法人 神戸まちづくり研究所 理事・事務局長 / NPO 法人 あしたあさって 監事
兵庫県地域再生アドバイザー / 兵庫県古民家再生アドバイザー / 兵庫県景観アドバイザー /
兵庫県まちづくりアドバイザー / 神戸市まちづくり専門家 / 西宮市宮っ子のいえアドバイザー /
東日本大震災まちづくり専門家 / 関西広域連合都市農村交流アドバイザー / 宝塚市空き家対策協議会会長

人・まち・住まい研究所 事業のキーコンセプト

<のこす・つたえる・つなぐ・つくる>

建築の設計や地域づくり活動の支援を通じて、社会と次のように関わり続けます。

自然の風景や人々の営み、記憶や知識を「のこす」
地域で暮らす人々の、風景や文化の素晴らしさを「つたえる」
各地の人々のなりわいや、思い、営みを「つなぐ」
その土地にふさわしい新しい文化や営み、風景・空間を「つくる」

メッセージ

地域での会合・話し合いの「場のデザイン」を得意にしています。

最近、地域で運営しているお蕎麦屋さんの社長も任され、蕎麦の生産を通じて、日本の農地や農業の将来について深く考えることが増えました。

地域の皆さんのよりよい「地域づくり」のお手伝いができること、皆さんと目標を達成できたときに皆さんと笑顔で喜びあえることが何よりの報酬だと思っています。

全国どこへでも地域運営のお手伝いに伺います。どうかよろしく願いいたします。

ワークショップのルールとポイント

皆さんが気持ちよくワークショップに参加していただくために

ルール

1. 人の意見を否定しない
でも…、それ駄目じゃない、無理、賛成できないは NG です。
他の人と違う意見も、どんどん言ってみましょう。
違う意見が出るのには理由があります。
2. ほかの方の意見を聞こう
人の意見は最後まで聞きましょう。
聞いてもらうために要点をまとめて話しましょう。
3. 差別的や不適切な発言に気を付けて
育ってきた環境が違うから、思い感じることは違います。
4. ワークショップで出た意見は、皆さんの意見

ポイント

- ① 合言葉は「イイね！」
- ② たくさんアイデアを出してみる。アイデアが出ないのも一つの意見です。
- ③ 人の意見のカブリ、パクリ、乗っかり OK
同じ意見は多くの人が思っていることです。

議会のあり方ゼミナールをお楽しみください。

第Ⅰステージ ゼミ生発表会まとめ

Ⅰ班テーマ：「立候補や議員活動の準備、議員適性に関すること」

●竹國健二さん提案

「議員適性検査、議員に向いているかなあ」

立候補者を増やすために、議員になるための資質や能力、心構え等を自身で判断できる「議員適性診断サイト」を作成してはどうか。自分が立候補するときだけでなく、友人等に立候補を勧めるきっかけにもなるのでは。

●成田新吾さん提案

「今の仕事をしながら議員の仕事ができるようにしたい」

今の仕事を続けながら議員になるのが難しいので、町の条例で会社から議員を立候補できるようにしてはどうか。議員を選出した会社には、町がその方の会社の給与を補てんすることで、会社にもメリットがある制度になるのでは。

●竹國俊介さん提案

「子ども議会を開催する」

候補者確保、なり手不足解消のために、学校教育の一環で年1回、「子ども議会」を開催してはどうか。子どもは遊びの中で議事を学び、子どもを通じてその家族が議会に対して興味を持つのではないか。

Ⅱ班テーマ：「議員の収入、報酬と働き方に関すること」

●一宮真知子さん提案

「出馬費用応援キャンペーン」

議員に立候補したいが選挙費用が原因で立候補できない方がいることから、立候補に必要な費用を町等が負担する「選挙出馬費用支援制度」を創設してはどうか。制度創設により、立候補者増加を目指す。

●藤原正好さん提案

「議員報酬や収入に関する要望」

現在の議員報酬 22 万 5,000 円では生活は厳しい。議員活動でかかる費用等を政務活動費で計上するとともに、議員報酬を 30 万円前後に引き上げてはどうか。報酬増額は議員定数を削減し財源確保してはどうか。

●藤原朋訓さん提案

「働き方改革 神河町取組開始（長期休暇 OK）」

議員の休日は不透明で、長期休暇が取れないという現状がある。そこで、「議員活動計画」を策定し、長期休暇を取得可能にしてはどうか。議員活動計画を公開することで、町民も議会の動きが分かるというメリットがあるのでは。

●村岡廣隆さん提案

「神河町限定 議員中の休職制度の創設」

議員落選時や任期満了時に元の職場に戻れるかという不安があり、立候補しづらい環境がある。会社に休職制度の導入を働きかけ復職できる環境を整えることで、自身や家族の不安を取り除き、議員のなり手不足解消につなげては。

3 班テーマ：「議員になったときの家族や生活への影響に関すること」

●上垣哲史さん、林田直子さん、藪内有希さん提案

「神河町議会サポーター制度の創設」

今の議会には育児や介護等家庭の事情を優先しづらい環境があり、それがなり手不足につながっていると考える。そこで、議員活動とプライベート（育児・介護等）をサポートする「神河町議会サポーター制度」を創設してはどうか。

神河町議会サポーター制度とは？

- ①子育て環境改善のため、役場内に託児所を設置。
- ②議員活動をサポートするため、議員コンシェルジュとマネージャーを導入。
- ③家族の負担軽減のため、月約3万円の議員家族手当を支給。

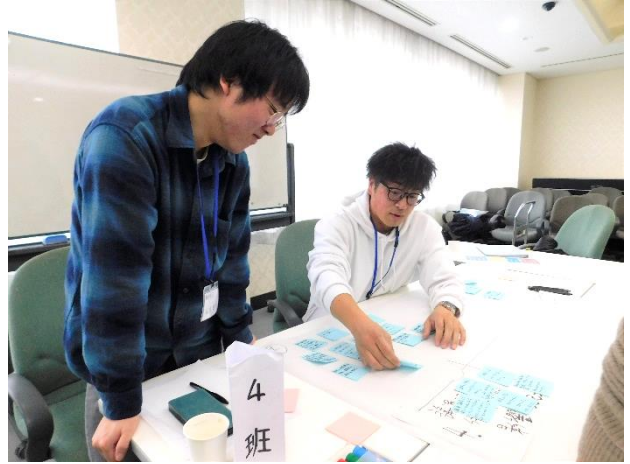
4 班テーマ：「議員活動に伴う社会的影響や心配ごとに関すること」

●松本優介さん提案

「区長廃止制度・新神河町ビジョン条例」

今、神河町では議員が一人もいない地域と複数名いる地域とがあり、地域で偏りができている。その偏りをなくすため、区長制度を廃止し、各地区から議員1名を選出、40名の議員で議会を構成する「区長廃止制度・新神河町ビジョン条例」を制定してはどうか。議員がより身近な存在となり、町民は相談しやすくなるというメリットがある。

あり方ゼミナール（第Ⅰステージ）の様子



神河町議会のあり方ゼミナール第2ステージ資料

1 議会改革の取組

(1) 活動量調査報告

① 議員活動状況表

No.	活動時間 (A)	日数 (B) (A ÷ 8H)	推定年間 (C) (B) × 2
平均値	192	24	47
中央値	170	21	41

※上記の活動日数は、①議会活動に付随する活動、②議員としての住民対話、③当該町村や各種団体主催の公的行事への出席、④その他の議員活動の4項目で各議員に記録いただいた時間を8時間で割ったものです。

※ 議長は含まず。

② 公務日数調査

No.	日数	左記の 同日開催 会議数
平均値	67	
中央値	68	

※議長は含まず。

③ 議長公務数

日数	左記の 同日開催 会議数
127	33

※議長は上記も含め平日は出勤されています。

(2) 原価方式による報酬額

(1) ①と②を基に報酬額を算定

- ① 議員活動状況日数 平均値 47日 中央値 41日
- ② 公務日数 平均値 67日 中央値 68日
- ③ 合計日数 平均値 114日 中央値 109日
- ④ 町長報酬額 760,000円
- ⑤ 町長職務遂行日数 305日(固定)

平均値による報酬額 760,000円 × 114日 / 305日 ÷ 284,000円

中央値による報酬額 760,000円 × 109日 / 305日 ÷ 271,000円

2 定数関係

①神河町議会 常任委員会の運営状況（市川町議会との比較）

神河町議会

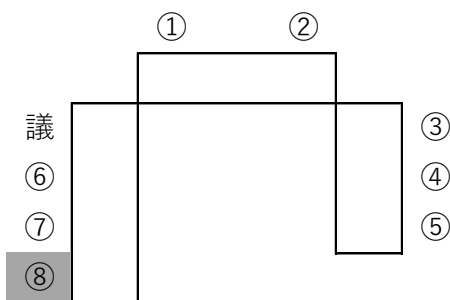
【定数12名】

現行11名

総務文教常任委員会 定数8名（現行7名）

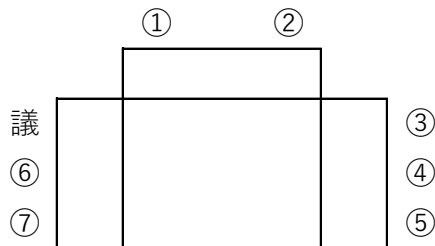
※議長は定数に含まず。

調査対象：4 課



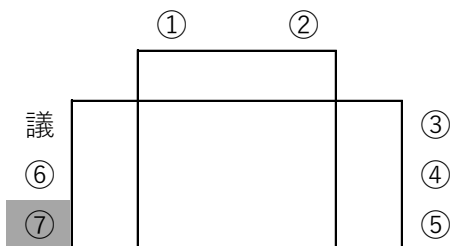
民生福祉常任委員会 7名（現行7名）

調査対象：4 課



産業建設常任委員会 7人（現行6名）

調査対象：4 課



は欠員

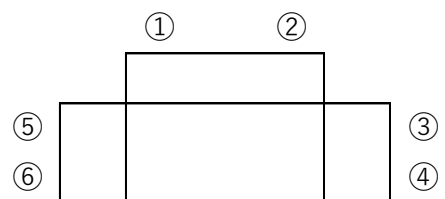
市川町議会

【定数12名】

総務建設常任委員会 定数6名

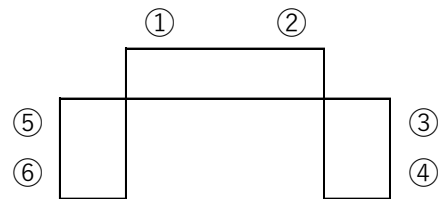
議長は定数に含む。

調査対象：7 課



民生教育常任委員会 定数6名

調査対象：6 課



凡例

議：議長